

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2007～2010  
課題番号：19530730  
研究課題名（和文）学校経営と教育方法の改善を実現するための学校建設に関する実践的研究  
研究課題名（英文）Designing School Facilities for School Management and Teaching  
Method: Practical Cases Concerning Educational Needs in Japanese Schools  
研究代表者  
笠井 尚（KASAI HISASHI）  
中部大学・教職課程・准教授  
研究者番号：10233686

研究代表者の専門分野：教育行政・学校経営

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：学校経営、学校施設・設備、学校建築、少人数学級、教育方法

### 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、学校経営や教育方法の改善に資する学校施設計画とその実現方法を探究することにある。すでに前次の基盤研究の成果によって、愛知県犬山市の2つの小学校で、学習を支援するための教室増築を行ったところである。今次はこれを発展させて、学校施設整備のさらなる実践的研究を進める。

研究の主眼は二点ある。一点は犬山市の2つの増築校舎において、環境整備と学習との関連についての調査、および、教室環境を活かした学習活動の開発を行うことである。もう一点は、次段階として計画中の全面改築校舎建設等において、よりよい学校施設建設を実践的に進めながらその内容と方法について検討することである。

具体的には次の点を内容とする。

- (1)愛知県犬山市における学校施設調査・利用実践および校舎計画
  - ①増築校舎の使われ方調査および指導法開発
  - ②全面改築校舎の計画構想
- (2)その他自治体における学校建設プロジェクトでの助言・指導
- (3)海外・国内学校施設事例の調査

### 2. 研究の進捗状況

上に掲げた内容についての研究の進捗状況は、以下の通りである。

(1)増築校舎の使われ方については、ユーザーとしての教員の設計参加プロセスについて、調査・分析を行った。指導法の開発に関しては、すでにそれらの増築計画において予定されていたような学習指導における活用を図

りながら、各校において実践がなされている。まだ、必ずしも新しい方法開発までは至っていないが、一方で羽黒小学校の改修・改築計画が進み、そこで、学校全体の教育計画に基づく学校施設計画を策定する作業を進めている。

この全面改築の対象となっていた羽黒小学校については、耐震診断の結果、一部を改修、一部を改築することとなり、本研究グループで、その改修・改築の基本構想を立案した。設計業者の選定の後、学校、教委、設計会社の調整を図りながら、現在は基本設計に対する助言を行っている。

一方、犬山市における学校施設の改築・改修計画の立案に関しては、今年度、全小中学校の基礎データを整理し、各校の施設概要調査を実施した。

(2)当初予定していた名古屋市の学校改築については、設計の進展と市の事務局担当者の交替後、施工過程に入ったこともあって、多くに関わるのが難しくなった。同校は2009年度春、開校している。

一方、これに代わって、愛知県日進市の学校改築作業に携わることとなった。小中併設校という挑戦的事例であることから、教職員の意思の汲み上げや、学習をよりよく支援する学校施設の建設に向けて、建設委員会の構成員として、基本計画立案、基本設計へのアドバイスを行っている。

(3)海外では、フィンランドおよびスイス、国内では建築に関する賞を受賞している東北地方の学校などを中心に調査を行った。よりよい学校施設の実態を明らかにする一方で、建築的なデザインの工夫と、学校現場の使い方や意識の乖離が明らかになっている。

### 3. 現在までの達成度

#### ②おおむね順調に進展している。

当初予定した研究の内容については、犬山市においては、設計業務の進展過程に合わせて、おおむね計画に沿って進めている。2008年度の段階で、学校改築の基本構想をまとめ、2009年度には児童を巻き込んだワークショップを開催することができた。さらに、他の自治体においても新たにかかわることのできる事例ができたので、そちらにおいても、とくに教職員の意図と学校施設計画の関連性について追究し、犬山市との比較においても分析・考察できるのではないと思われる。

犬山市で全面的な改築・改修となる羽黒小に関わる実際の設計・建設作業は、市における政治的な情勢と、財政的制約からプレハブ校舎を利用しない方針が示されたことにより順次、分断されて設計と建設が進められることとなった。このため、このような市の計画や工事の遅れによって、研究の対象とする内容が若干先延ばしになっている部分があるが、それは研究の遅滞ではないと考える。

ただし、このような事業の延長に伴い、学校全体の改修・改築が終了し、学校としての正規の利用の中でここでの建設に際しての意図の反映が検証されるためには、今年度の本研究終了後、さらに数年間、追跡して見ていく必要がある。

### 4. 今後の研究の推進方策

本研究費の最終年度までに達成する予定の課題として、今後、とくに、(1)犬山市と日進市における学校改築・学校新設における実施設計に対する指導・助言、(2)犬山市における市内全学校の改修・改築資料の作成、の2点に力を注ぎたい。とくに学校の教育要求を踏まえた全市的な資料を作成することは、単発で終わりがちな学校施設整備事業に展望を持たせる方法として、教育行政学的／学校経営学的な、学校施設運営の研究・実践としても嚆矢とすることができるのではないかと考えられる。

第2に、上に示したように、羽黒小学校の改築作業のすべてが本研究期間内に終わらないものの、羽黒小の計画・設計への指導・助言作業の成果からは、学校施設の評価指標を明らかにしたい。同時に、教員や児童生徒の意思を強く反映した学校施設設備計画についても有効な施設プランが策定できると考えられる。

羽黒小の利用状況調査と施設計画の総合的な評価については、この研究期間の後につながる継続的課題としたい。また、基本設計作業が進められている日進市の新設T校との比較考察、設計プロセスの他自治体への適用なども、次段階での研究課題となると考え

られる。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

①笠井 尚「学校経営と学習活動を支える学校環境整備：愛知県犬山市における『学びの学校建築』づくり」『日本教育経営学会紀要』、査読有、50号、2008年、91-100頁

〔学会発表等〕(計8件)

①笠井 尚「犬山市における学びの学校建築構想」、日本建築学会東海支部設計計画委員会主催シンポジウム「ユーザー参加から見る学校建築」、2010年3月6日、名古屋市立大学芸術工学部

②笠井 尚、畔柳 昭佳、堀部 篤樹、鈴木 賢二「チューリヒ・バーゼルにおける公立小学校のクラスルームに関する考察—スイスにおける学校建築の最新事例に関する研究(その2)—」、2009年8月28日、日本建築学会大会(東北)学術講演会、東北学院大学

〔その他〕

①犬山市学びの学校建築研究委員会(委員長：笠井 尚)「犬山市立羽黒小学校子どもワークショップ—まとめ—」(犬山市教育委員会)、2010年3月

②犬山市羽黒小学校改築基本構想研究委員会(委員長：笠井 尚)「犬山市立羽黒小学校改築基本構想」(犬山市教育委員会)、2009年3月